

北海道新聞

夕刊

2010年
3月20日 土

発行所：北海道新聞社
札幌市中央区大通西3丁目6
〒060-8711 電話：011-221-2111
www.hokkaido-np.co.jp

読者センター
011-210-5888

ご購入申し込み
0120-464-104
ヨムヨドーション

樺太の標石 北大スラブ研が複製

北大スラブ研究センターが、樺太(サハリン)の旧日露国境線のシンボルだった「国境標石」4基のうち、2基のレプリカ(複製)を作った。戦前の写真や拓本などを基に、長年風雪にさらされてきた質感や傷跡も忠実に再現。北大総合博物館で開催中の企画展「知られざる北の国境」で、4月2日から展示され、唯一国内にある実物の第2号標石とともに並ぶ。

(報道本部 仁科裕章)

樺太は1905年 在もはつきりとして(明治38年)、日露戦 ない。第2号は根室市争終結後のポーツマス 歴史と自然の資料館が条約で北緯50度より南 所蔵し、5月9日までが日本領、北がロシア 北大総合博物館で展示領となり、国境線の目 中。印として、将棋の駒形 複製は、資料が多くをした花こう岩製の標 残っている1号と3石4基などが設置され 号。ともに国内には実た。現在、第1号はサ 物がなないため、日本時ハリン州立郷土博物館 代の絵はがきや写真、に収蔵され、第3号は 元島民が標石に墨を塗行方不明。第4号の所 って写し取った拓本、



日露国境の象徴再現

質感、傷 忠実に 来月から 展示

各標石の寸法を詳細に 軍の資料、1号の現在 複製数あるが、真新しい 新品が多く、「傷 質 菊の紋章や帝政ロシアの国章「双頭の鷲」

幌市内の模型製作メーカー「ウエザーコック」に依頼した。標石の複製は国内にや色なども再現し、本物により近いものを作られたかった(同センター)という。



国境標石第1号の複製のロシア側面(右)と実物の第2号(左手前)を見比べる岩下教授。左奥が第3号の複製(西野正史撮影)

をはじめ、銃弾の傷跡とされる欠けた部分や色合いも本物の2号と区別がつかないほど。素材はポリエステル樹脂に石材を混ぜたもので、実物の15分の1の約8キと軽い。台座はキャスター付きで運びやすくした。

同センター長の岩下明裕教授は「当時の雰囲気分かるように正確に復元した。道内各地に貸し出し、国境問題を考えてもらいたい」と話している。

